



体育会 OBOG 連合会 (吉祥けやき会) 定時総会・懇親会開催される



7月14日(日)14:00~17:30 定時総会、講演会、懇親会が開催されました。

定時総会では、森雄一大学長(体育会会長)、境広志法学部教授学生部長のご来賓挨拶を頂き総会議題である

報告事項、決議事項、その他アンケート等の報告、審議の後研修セミナーとして「成蹊大学体育会の安全安心(ガバナンス体制)について」として連合会理事斉藤英俊氏による講演が行われました。

懇親会では、森雄一学長、武藤正司成蹊会副会長、松田秀夫甲南摂津会最高顧問のご挨拶を頂き、三嶋偉一成蹊学園常務理事の乾杯のご発声で懇談が始まりました。成蹊学園教職員はじめ甲南大学と各クラブの交流が和やかに進みました。応援指導部のリードで校歌斉唱を行い、中締めは小田切連合会副会長がご挨拶を行い閉会となりました。総会、セミナーによる資料は事務局に保存されているので別途参照ください。

寄稿 体育会 OBOG 連合会 (吉祥けやき会) 理事 木村明彦 (69 政経卒)

関東学生水球リーグ戦一部二部入替戦のご報告

2024年6月16日(日)に東京アクアティクスセンターサブプールにて、関東学生水球リーグ戦一部二部入替戦が行われました。本学は中央大学(前年度全国3位)と対戦致しました。

試合結果は次の通りです。●成蹊大学(0.3.1.2)6、○中央大学(1.3.2.2)8この試合結果をもって本学は二部リーグ残留となりました。

例年と比べても多くの練習量をこなし挑んだ一部二部入替戦でしたが、惜しくも残留とい

う結果となってしまいました。しかし、試合開始から相手の流れに呑まれることなく、自分たちの水球を展開しながら互角に戦い抜くことができた試合だったと実感しております。

また試合当日は、卒業生の皆さん、学園職員の皆さん、応援指導部の皆さん、保護者の皆様など多くの方々が会場にて直に応援していただきました。どの大学よりも活気溢れるサポーターを味方に戦えることをとても誇らしく思います。



応援してくださる皆様や、練習環境確保のためご尽力いただいている体育会OBOG連合会の皆様や学園関係者の皆様に、勝利という結果で恩返しができるよう、8月28日(水)から開催されます日本学生選手権に向け、より一層の気を引き締め練習に励んで参ります。今後ともご指導・ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

寄稿 水泳部 OB 会 幹事長 服部好彦 (90 法卒)

漕艇部第51回全日本大学選手権(インカレ)・第64回オックスフォード盾レガッタ(0x 盾)に出漕



来る令和6年9月4日、戸田ボートコースで開催。弊社からインカレに男子ダブルスカル(松山[4年]岩並[3年])女子シングルスカル(國廣[4年])が、0x盾に男子エイト(染谷[3年]中村[1年]池端[3年]田中[1年]河田[1年]長谷[1年]匹田[1年]佐々木[3年]羽田[1年])、慶應義塾大学との混合エイト(宮川[1年])計4

艇が出漕。インカレは4年生にとっては最後の大会です。各自ベストパフォーマンスを発揮。結果、男子ダブルスカルは予選5位、敗復(敗者復活戦)4位、女子シングルスカルは予選2位、敗復2位、準々決勝3位、FinalC 2位、23艇中12位、もうひと頑張り準決勝に届くところでした。0x盾は1年生にとっては初の2,000mレースでもあり、今持てる力を十分に発揮しました。4年生はこのレースを以て引退となります。3年半お疲れ様でした。今後はOBOGとして現役のサポートをお願いします。1年生は10月中旬に開催される全日本新人選手権



に期待をもてるレースでした。また、平日開催にも関わらず、多くのOBOG、保護者の皆様、大学から熊崎様が戸田に応援に駆けつけて下さいました。お忙しい中、有難うございます。今後とも弊社部員に活躍を注目して頂けると幸いです。

寄稿 漕艇部 OB 会 幹事長 朽網宣介 (99 文卒)

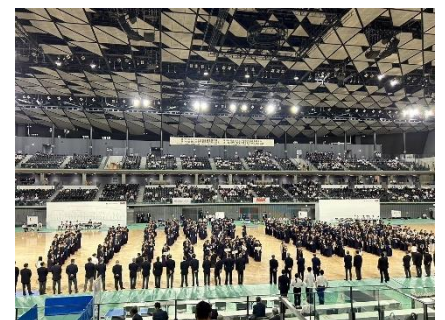
第72回全日本学生剣道選手権へ出場



本学剣道部に所属する西沢秀稔(経2年)君が五月十二日に行われた第七十回関東学生剣道選手権大会においてベスト64の成績を収め、420名中72名に出場権が与えられる第七十二回全日本学生剣道選手権大会への出場(六月三十日開催)が決まりました。1回戦は過去に全日本学生剣道選手権大会に出場した経験のある帝京大学四年生の強豪選手でしたが、延長戦開始後に小手を決め勝利し、そのまま全日本学生出場決定戦となる3回戦まで駒を進めました。相手は高校時代にインターハイに団体・個人共に出場したことがある大東文化大学の選手でしたが、序盤に相手を攻め崩したところに飛び込み面を決め、その後、試合時間終了まで相手の猛攻をかわし続け見事一本勝ちで全国大会への出場権を勝ち取りました。(その後は4回戦で日本大学の選手に敗退)

その後、全日本学生剣道選手権大会に向けて約一ヶ月半稽古に取り組みましたが、大会前日に西沢君が不慮の事故により右手を負傷するアクシデントが発生しました。大会を棄権する選択肢もありましたが、本人の強い意思もあり、包帯を巻いた状態で試合に臨むことになりました。

1回戦の相手は東海地区を勝ち上がった朝日大学の選手でした。西沢君は右手に怪我を負っていることを感じさせない堂々とした戦いぶりで終盤まで互角の戦いを繰り広げました。



1回戦の相手は東海地区を勝ち上がった朝日大学の選手でした。西沢君は右手に怪我を負っていることを感じさせない堂々とした戦いぶりで終盤まで互角の戦いを繰り広げました。しかし、試合時間残り1分位となったところで、若干手元が浮いたところを相手に小手を打たれて一本先取されました。試合時間は残り僅かでしたが、一本取り返すために果敢に相手を攻め続けましたが、残念ながら、取り返すことができず、1回戦敗退となりました。

敗退したものの、全日本学生選手権大会への出場は、本学として、三年ぶり8人目の快挙であり、OBや学生も全日本という舞台上で戦う西沢君の姿に胸を熱くさせ、応援にも力が入っておりました。本学剣道部では引き続き各種大会で良い成績を収められるよう、精進してまいる所存です。

寄稿 剣道部 OB会 監督 飯塚裕一（10 法卒）



成蹊学園サッカー一部 OB会 活動報告



OBOG 連合会の皆様方とは、総会で初めてご挨拶をさせて頂いた方も多いと思いますので冒頭のご挨拶では改めて「はじめまして！」とした方が良いでしょう。今年から成蹊学園サッカー一部 OB 会事務局の事務局長兼運営委員長を拝命致しました溝口と申します。成蹊学園サッカー一部は、1918年、成蹊中学校（旧制）蹴球部の創部から続く長い歴史があり、また OB 会も凡そ約 1,100 名を超える組織であり、身が引き締まる思いです。

さて、我々の OB 会としては主に小学校～大学に至る現役学生に対する金銭、就職活動、運営等への支援と OB コーチの派遣等の活動を実施しております。今年においては2月25日の小学生から大学生の全サッカー部員が集まる交流イベントであるサッカーフェスティバル、3月24日のOB総会、また大学関連では毎年実施している8月4日の甲南大学、8月11日の学習院大学との定期戦を実施致しました。大学サッカー一部も8月の夏の中断期間を終えて9月に入り、関東大学サッカーリーグ東京・神奈川1部でのリーグ戦が再開し、関東大学サッカーリーグへの昇格を目指し、頑張っております。今年より OB 会の役員運営体制も私を含めた若手(?)の役員を加えて体制を変更しておりますが、今後ともご指導、応援のほど何卒宜しくお願い申し上げます。



成蹊学園サッカー一部 OB会 運営委員長兼事務局長 溝口 慶（93 経卒）

準硬式野球部活動報告



主将の小林夕馬選手が所属する東都大学連盟の選抜チームに選出され、関東地区大学準硬式野球連盟主催により開催された【関東 JUNKO オールスター大会 2024】に出場しました。同大会は東都大学連盟、六大学連盟、新関東連盟、北関東連盟、神奈川連盟からの選抜チームが参加し、福島県さつき公園第一球場と表郷天狗山球場にて2024年6月28日(金)から30日(日)の日程で熱戦が行われました。

東都大学連盟選抜チームは予選リーグ 2 試合を勝ち抜き、決勝戦で六大学連盟選抜チームと対戦。惜しくも決勝で敗れたものの、準優勝の成績を収めました。

小林選手は予選リーグ 2 試合に出場しました。「非常に高いレベルでプレーすることができたため良い刺激を受けました。ここで学んだことや感じたことをチームに戻ってから取り入れていき、秋季リーグ戦はリーグ優勝を目標にチーム一同全力で戦っていきます」とのコメントのとおり、今回の選抜チームでの経験は小林選手のみならず、チーム全体へ良い影響を与えたのではないかと思います。

9月7日より東都大学連盟の秋季リーグが開幕いたします。4部優勝3部昇格を目標にリーグ戦に臨む学生たちを引き続き応援して参ります。

寄稿 準硬式野球部 幹事長 加藤将之（10年経卒）



籠球部(バスケットボール部)からの活動報告



体育会男子籠球部は、特別強化指定団体に選出していただき3年目となりました。今年度は、4年4人、3年5人、2年8人、1年5人、マネージャー5人、学生コーチ1人の総勢28人で活動しています。

特別強化指定団体1年目は、目標である3部リーグとの入替戦まで進みましたが、惜しくも3点差で敗れました。昨年度は4部8位という残念な結果となってしまいました。学生たちは今年こそはという気持ちで、3部昇格を目指し頑張っています。

前期の成績は、5月のトーナメントでは、3回戦まで勝ち進み上位リーグのチームに敗れましたが、期待が持てる試合内容でした。6月の四大戦では、3位という結果でしたが、上位リーグに所属する学習院に対して9点差という期待が持てる試合でした。

前半は結果としては厳しいですが、今年度も外部の専門フィジカルトレーナーに委託して、体力・筋力面での強化を図り、リーグ戦に照準を合わせて練習に取り組んでいます。また、8月には新潟県での合宿も計画しています。猛暑の予想もありますので、体調管理を十分に行事事故無く終了し、個人の成長とチームのレベルアップを図って欲しいと思います。そして、集大成である秋のリーグ戦で、これまでの努力の結集を遺憾なく発揮し、悔いのない戦いをしてほしいと願っています。

寄稿 籠球部(バスケットボール部)OB会 会長 関口大輔(85年経卒)



合気道部からの活動報告



体育会合気道部では、総勢15名の部員で月、金、土曜日の週3回活動を行っております。

合気道はよく護身術として知られていますが、力ではなく氣や呼吸力を用いて相手を制する武道の一種です。年齢や性別、体格を問わず誰でも気軽に始めることができます。入部する学生はほとんどが未経験者で、初段審査合格を目標に部員一同稽古に励んでおります。

去年の9月には、4年ぶりに大学校内で3泊4日の合宿を行いました。厳しい残暑の中、誰一人として怪我をすることなくやり抜き、

みな一回り成長しました。

11月に行われた櫛祭では、合気道部は今川焼きを販売しました。コロナ禍が明け、例年通りの櫛祭開催で、皆初めてのことが多く、手探りの状態でした。しかしOB、OG方の

アドバイスもあり、今川焼きを全て売り切ることができました。

現在私たち合気道部は天候に恵まれなかったことなどで勧誘が思うように行かず部員が15名しかいない状況です。そのためこれからも勧誘活動を頑張って続けていきますので、温かい目で見ただけであれば幸いです。

そして合気道部を通して、技だけではなく人間としても成長できるように、今後も活動を続けてまいります。



寄稿 合気道部 OB会 会長 芦田健 (02年経卒)

居合道研修会 OBOG 会会長を拝命して

この度、林一雄前会長の後任として居合道研修会 OBOG 会の会長を拝命した伊藤勉 (78年文卒) です。皆さん、居合と聞くと刀の抜きつけのスピードによって相手を圧倒するようなイメージがありませんか。もちろん、眼にも止まらぬ太刀さばきを実現している達人もいます。しかし、現代武道の居合道は実戦性よりも様式美や形の正確さといった「道」の部分に主眼を置いています。そして、最終的には刀を抜くことなく戦闘を回避する「鞘の内」という理想が居合の到達点です。居合にはその基本理念を表している道歌「居合とは、人に斬られず人斬らず、己を責めて平らかな道」(意味：鍛錬を通して、自分の心技体を磨き上げ、勝ちに備える。しかし、実際には刀を鞘から抜くことなく、自分を律する。そして事前に争いを治めることを良しとする。)があります。勝負に勝つために鍛錬する。しかし、実際には勝負をしない。勝ち負けを決めない。これは一見矛盾しているように見えます。しかし、この矛盾の昇華こそが居合の極意であり、この考え方は矛盾に満ちた現代社会においても十分通用するものと思っています。



当会は1967年に創立され、1979年に体育会に昇格しましたが、「(居合を通じて)自らを磨き修得する」との意味を込めて「部」ではなく、「研修会」を踏襲しています。現在部員数は男子11名、女子5名(2024年8月現在)ですが、現役学生には成蹊大学居合道研修会での貴重な経験を社会に役立ててほしいと願っており、今後とも現役とさらに交流を深め、活動の支援に向けて努力していく所存です。(写真は昨年11月に5年早めて開催した創立60周年記念式典の集合写真です。)

寄稿 居合道研修会 OBOG 会会長 伊藤勉 (78年文卒)

体育会バレーボール OB/OG 会 会長就任ご挨拶

このたび、成蹊大学体育会バレーボール部 OB/OG 会「けやき倶楽部」の新会長に就任することとなりました、平成3年卒業の小林史明です。新会長の命を受け身の引き締まる思いです。

前会長・役員・理事の皆様からの貴重なバトンを受け継ぎ、これからは平成卒の新役員・理事と共に、新体制で OB/OG 会活動並びに現役の部活動支援に尽力して参ります。

成蹊大学体育会バレーボール部は70年以上の長い歴史を誇り、数々の選手たちと共に築かれてきた伝統と情熱があります。この豊かな歴史を引き継ぎ、昭和卒から令和卒まで、そして現役選手たちとの橋渡しを行いながら、部のさらなる発展を目指していきたいと考



えています。

現役バレーボール部の主な目標はリーグ戦での優勝と昇格です。そのために、OB/OG 会からの経済的支援や技術的なサポートを最大限に活用し、現役選手たちと共に一丸となって取り組んでいく所存です。

私自身卒業後もバレーボールとの関わりを続けており、卒業後に四大学 OB によるクラブチームに所属していた事もあり、今なお四大学 OB とも親しくしております。夏には藤沢市鵠沼海岸で開催されるビーチバレーボー



ール大会にも 20 年以上参加しており、成蹊 OB/OG だけでなく、成蹊大学バレーボール部の現役選手や、成城・武蔵の OB の方々とチームを編成し、楽しい時間を過ごしています。

また、甲南大学の同期とも長年にわたり交流を続けており、その親友が同大学の現



OB 会長という奇遇にも恵まれた事からも、バレーボール部の繋がりや絆の強さを日々体験しておりました。

このような経験を通じて得たネットワークや知見を活かし、部活動の更なる発展に貢献できるよう努めて参ります。これからも成蹊大学体育会バレーボール部の応援をどうぞよろしくお願いいたします。私たちの活動が、より多くの人々に感動と喜びを届けられるよう、一生懸命に取り組んでいく所存です。

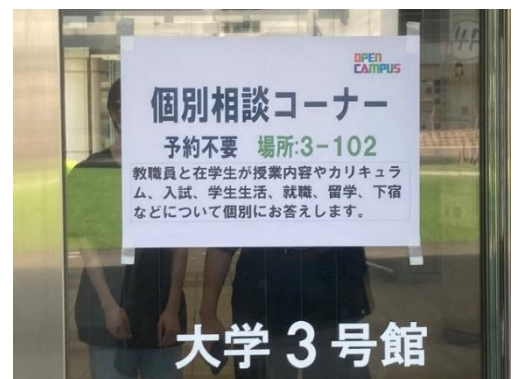
寄稿 バレーボール部 OB/OG 会 (けやき倶楽部) 会長 小林史明 (91 経卒)

体育会本部はオープンキャンパスに参加する



成蹊大学の OB・OG の皆様、いつも多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。今年度、体育会本部では、受験生を対象とした体育会イベントを、8 月 2 日から 8 月 4 日にかけて開催されたオープンキャンパスにて実施いたしました。本イベントは、受験生に成蹊大学の体育会の魅力を伝えることで、早期に力のある部員を確保し、ひいては入学志望者の増加を目指す目的で開催されました。具体的には、受験生が体育会に関する悩みを相談できる「相談コーナー」と、成蹊大学体育会の魅力を講義形式で発表する「講演会」を行いました。3 日間で約 100 名の受験生と保護者の方々にご来場いただき、体育会と体育会志望の受験生を結ぶ架け橋となるイベントにできた

と感じております。私自身、本年度が初めての開催であったため、「運営体制の基盤を作る」ことを意識し、本イベントの計画に取り組みました。計画にあたり、アドミッションセンターや学生部の担当者の方々、そして広報の面でも OB・OG の皆様に多大なるご協力をいただきました。この場を借りて、心よりお礼申し上げます。しかしながら、今回のオープンキャンパスイベントが 4 月の本入部にどの程度繋がったか、受験生に対して十分な情報提供ができたかについては、いまだ課題が残っていると感じております。今年度の反省を踏まえ、来年度はさらに充実した内容となるよう改善を重ねてまいります。私たちは「体育会のための体育会本部」として、従来のイベント運営に加え、各部活が目標を達成できる環境を整えるため、新入部員の確保や資金調達などの課題にも積極的に取り組んで参ります。そのためには、OB・OG の皆様のご支援が不可欠でございます。今後とも、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。改めまして、本イベントにご協力いただきましたすべての関係者の皆様に、心から厚く御礼申し上げます。



第 74 代体育会本部副委員長 体育会水泳部競泳班所属 3 年 新居常俊

大学学生部と体育会 OBOG 連合会共催によるセミナー開催する

9 / 7 (土) 10 : 00 ~ 研修セミナー「コーチング的コミュニケーション」と題してセミナーが開催されました。講師には(株)ホープス坂井社長をお呼びし、体育会 OBOG 指導者を対象とした、且つ、大学の学生部と OBOG 連合会が主催した初めての研修セミナーでした。体育会 26 団体、55 名の参加を頂き有難うございました。講師坂井社長の明快なスピーチと講義内容、そして、ご参加の皆様の真剣な聴講姿を拝見し、セミナー終了後の感想文では好評文が多く、連合会事務局として、このような研修セミナーの必要性を強く感じた次第です。

(感想文の集計資料は後日配信します) 大学体育会の課外活動で発生する不祥事は、全国的に発生し、社会問題となって騒がれています。学生達が起こす不祥事のみでなく、監督・コーチ等指導者が起こす不祥事も多く、特にハラスメント問題が多発しています。今回のセミナーは、課外活動の管理部門である大学学生部と(株)ホープス坂井社長と事前に打合せし、この指導者、或いは OBOG のハラスメント問題と令和時代の学生達との円滑な情報交換(コーチング的コミュニケーション)について、取り上げ研修をして頂きました。成蹊大学体育会の安全安心の環境創り(ガバナンス体制の構築)を皆様のご理解とご協力により、更にグレードアップしていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。研修当日のプロジェクトで使用した資料を配信しますので、団体内の説明会等にご利用願います。本資料は、学外秘扱い(OBOG、学生は OK、学外者や団体へは NO)でお願いします。当日の資料は、会員に配布と共に事務局で保管しています。

寄稿 体育会 OBOG 連合会 会長 御厨雅宏 (69 工機卒)

事務局から

SMAnews は、次回 12 月 25 日発行 40 号で発行から 10 年となります。沢山のクラブの方々のご協力のお陰で年 3 回発行を継続することができました。また読者も体育会 OBOG の卒業生のみならず、学園関係者はじめ現役の学生一人一人に広く行き渡ってきているように感じます。ありがとうございます。

次号は、「10 年記念号」としてもっともっと多くのクラブの方々に投稿頂けるようご協力下さい。

この 5 年でコロナも経験しました。日本の人口減、そして学生数の減少、クラブの入部員数の減少等にも直面しています。自分の所属しているクラブ学生と OBOG 会との関係を知るだけでは井の中の蛙です。この 10 年間で他のクラブの活動を知り、現役支援のためにはもっと学生と接する機会を作らないといけないと活動してきました。そして各 OBOG 会もその組織・運営のためのガバナンス力を高めて行くことをお願いしてきました。まだまだ十分ではありませんがこの SMAnews により知りえた情報を活用しもっともっと動き出しましょう。体育会 OBOG 連合会(吉祥けやき会)も皆さん方の相談に乗れるよう力をつけて参ります。

寄稿 体育会 OBOG 連合会(吉祥けやき会) 理事 木村明彦 (69 政経卒)

Information 重要なお知らせ

■お知らせ

□次号 SMAnews 40 号(10 月~12 月)は、12 月 25 日頃発行予定です。

クラブの優秀選手の活躍、OBOG 会、周年行事、四大学との交流等々積極的に PR 掲載下さい。

お待ちしております。

掲載責任者 木村明彦